2016年度卒業生

就職希望者就職率

上昇95.8%

専修大学の2016年度（17年3月卒）の就職希望者就職率は前年度比0・5ポイント増の95・8%。5年連続の上昇となった。

卒業生全体に占める就職者の割合を示す卒業者就職率は84・8%（前年度比2・7ポイント増）となり、2年連続で高い水準を示した。就職課は「企業の採用意欲が高かったことに加え、本学学生が粘り強く取り組んだ結果」とみている。

学部別就職希望者就職率は経営学部が最も高く97・8%。前年度比でも経営学部が最も上昇しており、1・7ポイント増だった。男女別でみても経営学部は男子97・0%、女子99・4%と、7学部の中で高い数字となった。前年度に比べ上昇幅が大きかったのは、経済学部女子、法学部男子、商学部男子、文学部男子、ネット情報学部女子、人間科学部男子。

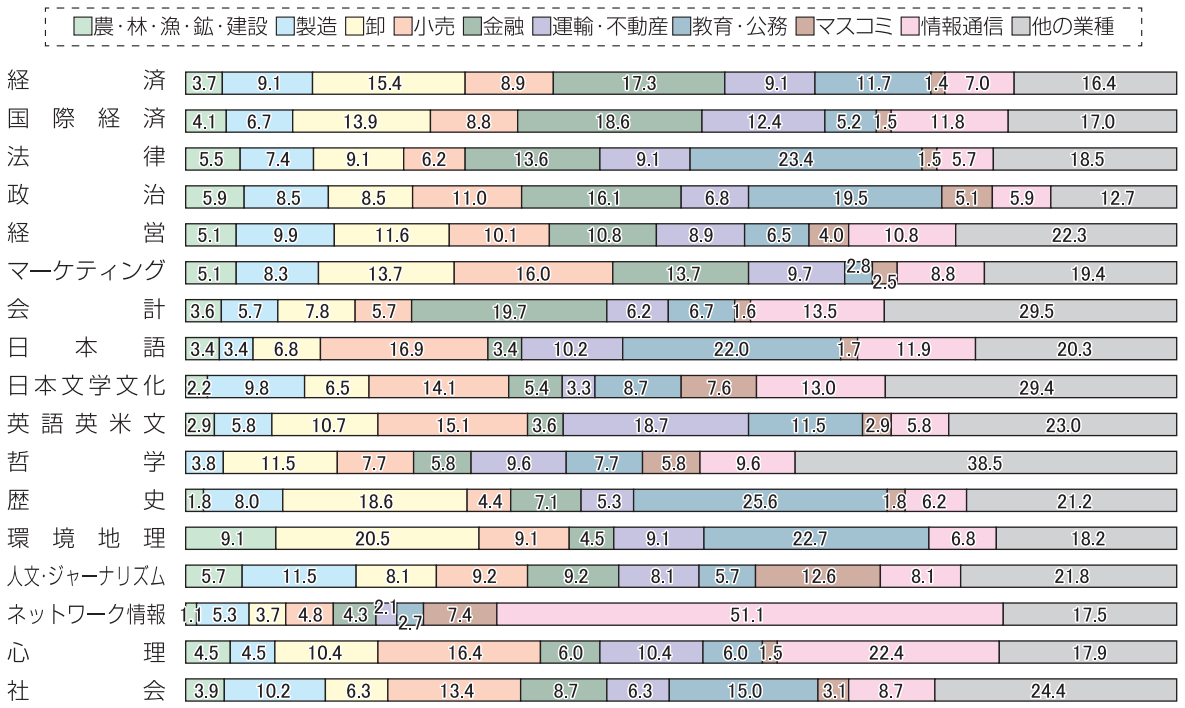
学科別の就職状況をみると、各学科とも専門性を生かした進路先となっている。文学部の日本語、歴史、環境地理の3学科では、教員採用試験合格者が増えた。

学部別就職希望者就職率

（%、下段は前年度比増減、ポイント）

	全体	男子	女子
経済	96.1	95.4	98.2
	0.7	0.4	1.6
法	96.4	96.1	97.0
	0.4	1.5	-1.6
経営	97.8	97.0	99.4
	1.7	1.6	1.9
商	96.3	94.9	98.0
	1.4	1.9	0.4
文	93.3	92.7	93.8
	-0.2	2.6	-2.4
ネット情報	94.0	93.6	95.0
	-2.1	-4.0	2.4
人間科学	95.6	95.7	95.6
	-0.4	2.3	-1.8
全学部	95.8	95.3	96.6
	0.5	1.1	-0.4

2016年度卒業生　学科・業種別就職状況



育友会主催就職懇談会

就活の最新動向知る

4年次生が体験報告

育友会の就職懇談会が7月1日、神田キャンパスで開催された。リクナビ編集長の大家純一氏の講演や、内定を得たばかりの4年次生と育友会役員によるパネルディスカッションなどがあった。ご父母・保護者ら約200人が参加、就職活動の最新動向や、就職支援体制、公務員試験講座の説明に熱心に耳を傾けた。

大家氏は、就職を取り巻く環境変化と保護者の支援のあり方について講演した。保護者世代の就職環境との変化や現在の就職環境などをデータを示しながら解説し、「会社選びに正解はない。本人が納得できるかという点を大切にしてほしい」と述べた。

パネルディスカッションには小林遼さん（法4）、佐野友紀さん（経営4）、親の立場から東平豊三育友会長、出雲高志育友会相談役（前会長）が登壇、齊藤公男本学就職部長がコーディネーターを務めた。

小林さんと佐野さんは実際に企業に提出したエントリーシート（ES）などを基に、面接の受け答えを再現。小林さんは「希望する企業の説明会には毎日のように足を運んだ。インターンシップやOB訪問で、熱意を伝えた」と振り返った。佐野さんはES作成に2週間以上かけたといい、「自分の伝えたいことだけでなく、相手がなにを知りたいか考えて書いた」と語った。

4年次生の母親である東平会長は「就職活動は子どもにとって成長の場であり、親にとっても勉強する機会」と述べ、出雲氏は「親はわが子のことになると一生懸命になるが、あえて一歩引いた目線も大切」と語った。

4年次生と育友会役員によるパネルディスカッション

焦ることなく着実な準備を

就活への近道は入念な準備にある。まずは学業に励み、充実した大学生活を送ることが大切だ。加えて就職支援プログラムへの積極的な参加が必要となる。

大学の低年次からやるべきことをやるべき時期に行っていないと、就活のスタートが切れない。3年次生までに将来を見据えた職業観を身につけ、進学か、公務員か、民間か、早めに自己決定することが必要だ。

就活は、これまで学んできたことや経験を整理して、将来につなげるための活動。人間力勝負になる。自分の力で汗を流して、いろいろな人と話をすることが大事。いくら成績がよくても、資格を持っていても、それだけでは内定は取れない。

歴史と伝統ある専大生であることに胸を張って、就活に臨んでほしい。あきらめずに粘り強く続ければ必ず結果は出る。

（就職部　髙橋力次長）

4年次生へ――学内企業説明会を開催

18年春卒業生の就職活動は6月に選考活動解禁となり、売り手市場と相まってすでに山場を迎えている。

そうしたなかで、学内企業説明会を希望する企業が増えている。本学学生に対する採用意欲が高い企業側にとっては、学内で直接自社をPRし、学生との接点を増やす機会。専大生の採用実績がある企業も多い。学生にとっても、多種多様な業界を効率よく知り、自分に合った企業の情報を探しやすいというメリットがある。随時、開催していく。

3年次生へ――支援講座 多彩に展開

3年次生の就職活動は9月下旬の就職ガイダンスから始まる。

10月から本格化する就職支援プログラムでは自己分析、業界研究入門、エントリーシートの書き方など就職活動の流れに合わせて多彩な講座を展開する。

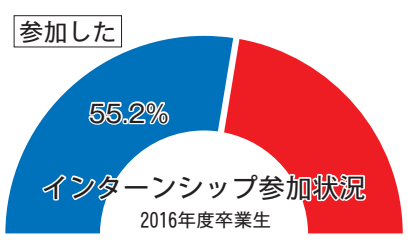
講座の詳細や開催時期は、就職支援システムS-netやポータルサイト、就職課Twitter（@kjob4）などで確認を。

インターン関心高まる

就職活動で存在感を増しているのがインターンシップだ。

インターンシップは、学生が社会で仕事を体験し、社会経験を積むためのもの。本学では、就業体験型インターンシップとして、企業・官公庁・NPO、中長期、海外、農業、道の駅などさまざまなプログラムを提供している。学内で実施する1、2年次向けの「プレインターンシップ」もある。

キャリアデザインセンターによると、夏期就業体験型インターンシップ募集説明会の参加者は今年度、延べ2213人（昨年度1171人）で、学生の関心は高まっている。今春卒の民間就職者を対象にしたアンケート（一部学生933人が回答）では、何らかのインターンに参加した学生の割合は55・2%で、前年度から2・2ポイント増えた。



□キャリアデザインセンターから□

キャリアデザインを考えるためには、自分に何が不足しているか、そのために何を学んだらいいかを把握する必要があります。早いうちに就業体験することは、スムーズに就職活動へ進むことにもつながります。

迷ったときにはキャリアカウンセリングを利用して、方向性を見つけてください。キャリアカウンセリングはWebキャリアノートから申し込みできます。

大家純一氏講演要旨

就活のポイントを伝える大家氏

最近の採用スケジュールでは、3月に説明会解禁になってから内定までが短くなってきている。

短期決戦型就活のつまずきポイントは①企業研究不足②業界研究不足③自己分析不足。準備不足が露呈すると前に進めない。3月になってから始めたのでは遅い。それ以前の準備が非常に重要になってくる。

その中でインターンシップが盛況だ。実施企業は本年度で68%。今春卒の内定者にインターンシップ参加学生が含まれる企業の割合は7割を超える。インターンシップは内定を目的としないが、参加した学生のほうが就職活動は成功したと感じている。

さらに就職準備で重要なのは、「企業研究などで仕事のことを知る」「自分のことを知る」。この二つを繰り返すこと

「仕事」と「自分」理解重要

で最終的に納得のいく会社・仕事に出合える。

大手企業だとエントリーだけで1万人を超える。とにかく就職活動では落ちるということを認識してほしい。落ちることに慣れていないので自己否定してしまう学生も多いが、そうではない。

「準備ができてなかった」「自分には合わなかった」くらいに考えてほしい。

そういったときに保護者としてどう接したらいいか。

学生は親に、サポート的な存在であることや励まし、大人としてのアドバイスを求めている。就活スケジュールなどで相談してきたら「就職課に行ってみたら」と言ってあげてほしい。情報が一番集まっているのが就職課だ。

就職活動はそもそも、いい会社に内定をもらうことが成功と近視眼的に捉えることが多いが、ゴールではなく、あくまでスタートライン。長く働くことを考えたとき、どうキャリア設計をしていくかが重要だ。就活はそれを考えるいい機会になる。